



# 平成25年度 助成団体活動報告会

日時：平成25年11月30日(土) 9:30～15:30  
場所：東京国際フォーラム G402/410  
ガラステラス棟会議室

## 「協働・連携」～活動を広げるきっかけづくり～

地球環境基金は環境保全に取組むNGO・NPOの活動に対して資金の助成を行っており、毎年度助成団体による活動報告会を開催しています。この報告会は、助成団体が自らの活動の進捗状況等を報告・発表し、参加者との意見交換を行うことにより、活動がより有意義なものとなることを目的として実施しています。

今年度の活動報告会は、20周年記念事業の一環として位置付け、企業・行政の方もお招きし、従来の活動報告に加え意見交換の時間を設けるなど、環境NGO・NPOと他の主体との協働・連携をより深めるための内容としています。

NPO・企業・行政が、それぞれの立場で地球環境問題解決に向けた協働・連携の取組みについて考える最良の機会となりますので、是非ご参加下さい。

### プログラム

- 9:30～10:15 全体ガイダンス (分科会会場へ移動)
- 10:25～10:35 分科会開会挨拶
- 10:35～12:15 活動発表及び意見交換①
- 12:15～13:15 ～ 休憩(60分) ～
- 13:15～15:20 活動発表及び意見交換②
- 15:20～15:30 講評(分科会毎)

※15:30解散以降は、発表者等の意見・名刺交換として会場を開放します。(最大17:00まで)



- 発表団体 地球環境基金助成団体（一般助成2年目）40団体  
テーマ毎に6つの分科会に分かれます。
- 当日の流れ
  - 「全体ガイダンス」では、前日のパネルディスカッションでの議論を総括、共有することで、活動報告会の議論につなげます。
  - 「活動発表及び意見」は午前と午後の二部構成となっており、午前はNGO・NPOが各々の助成活動について進捗状況の報告を行うとともに、各分科会のテーマについて意見交換を行います。さらに午後には、NGO・NPOの助成活動の報告後に、今後の市民活動における協働と連携について意見交換を行います。
  - 午前と午後の冒頭には、協働や連携について考えるきっかけとして、NGO・NPOと連携事例を有する企業などからの事例紹介を行います。さらに、報告会終了後には、名刺交換の時間もお用意しておりますので、ネットワーク拡大にご活用下さい。
- 対象
  - 自らNGO・NPOに関わるなど、環境保全活動に携わっている方や興味をお持ちの方
  - NGO・NPOのことを知りたい、またこれから関わってみたいといった興味をお持ちの方
  - 企業においてCSR部門や環境保全担当などで活躍されている方
  - 自治体などで環境行政に携わっている方や、環境行政に興味をお持ちの方

## 分科会の構成・内容について

<b>A 若年層への環境教育</b>	小学生から高校生までを対象とした環境教育活動を中心として、活動の取組みを報告 例) 子どもを対象とした生物多様性についての環境教育 etc うちエコ！ごはん、全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク、(社) 大学コンソーシアム石川、(特非) 地域循環研究所、(社) 日本環境教育フォーラム、(財) 日本環境協会
<b>B 総合環境教育</b>	各地域における環境教育活動を中心として、今後の環境保全活動を担う人材の育成など取組み状況について報告 例) 次世代の環境保全活動を担う人材の育成 etc (財) 国際環境技術移転センター、(特非) 開発教育協会、Climate Youth Japan、(財) 公害地域再生センター、(社) 生態系トラスト協会、(特非) フィールドリサーチ
<b>C 社会システム構築</b>	様々な分野において行政や企業と連携事例をもつ活動を中心として、活動の取り組み状況を報告 例) ESDのさらなる推進のためのネットワーク構築 etc (財) 地球・人間環境フォーラム、(特非) GLOBE Japan、国連生物多様性の10年市民ネットワーク、中部ESD拠点協議会、(特非) 持続可能な開発のための教育の10年推進会議、(特非) 山のECHO、容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
<b>D 地域環境活動</b>	日本各地で行われている地域に根ざした活動を中心として、地域の環境保全の現状などについて報告 例) 市民発の循環型社会モデル形成活動 etc (社) あきた地球環境会議、(社) 環境生活文化機構、(特非) 環境ネットワークくまもと、(特非) 環境保全米ネットワーク、(財) キープ協会、(特非) スプリングボードコミュニティ21、悠久の森実行委員会
<b>E 国際環境協力</b>	海外で行われている活動を中心として、海外で環境保全活動を行う難しさなど、活動の取り組み状況を報告 例) 開発途上地域における湿地の保全・再生活動 etc (財) 高知県野志野記念財団、(特非) 日本国際湿地保全連合、(特非) 日本地下水文化研究会、(財) 日本国際フォーラム、(特非) 日本国際ボランティアセンター、(特非) 日本ハビタット協会
<b>F 生態系保全活動</b>	生態系保全に向けた活動を中心として、その専門的な活動の成果をどのように一般市民に対して還元していくかなど、活動の状況を報告 例) 東日本大震災が生物多様性に与える影響調査 etc (特非) エバーラスティング・ネイチャー、(特非) 環境創生研究フォーラム、(財) 環日本海環境協力センター、生物多様性JAPAN、(特非) 中池見ねっと、(特非) 日本チョウ類保全協会、(特非) 野生生物保全論研究会

## 「持続可能な社会の構築に向けて」～地球環境基金の新たなスタート～

平成25年5月、地球環境基金は創設20周年を迎えました。その間、わが国の環境NGO・NPOは質・量ともに向上してきましたが、依然として地球環境をとりまく状況は厳しく、地球温暖化防止、生物多様性の保全、持続可能な社会の実現など、地球環境問題解決のためには、今後ますます環境NGO・NPOの役割が重要になると考えます。

そしてこれからの社会は、環境NGO・NPOと企業、行政がそれぞれ活動するだけでなく、各主体間でより協働・連携を深め、様々な環境諸課題を解決していくことが重要であると考えます。

このたびの講演会・シンポジウムでは、今後の地球環境基金の支援のあり方や、各主体間で協働・連携をいかに進めていくか、パネリストの方々、そして皆様と一緒に展望したいと思えます。

### プログラム

- 13:30～13:35 開会の辞： 独立行政法人環境再生保全機構 理事長 福井 光彦
- 13:35～13:45 挨拶： 環境省来賓 地球環境基金 運営委員会 委員長 森島 昭夫 氏
- 13:45～14:45 基調講演： 『「はやぶさ」、やれる理由がプロジェクトを遂げさせた』



独立行政法人宇宙航空研究開発機構  
シニアフェロー 宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 教授 川口 淳一郎 氏  
宇宙工学者、工学博士。1978年 京都大学工学部卒業後、東京大学大学院工学系研究科航空工学専攻博士課程を修了し、旧文部省宇宙科学研究所に助手として着任、2000年に教授に就任。2007年4月から2011年9月まで、月惑星探査プログラムグループ プログラムディレクタ (JSPEC/JAXA)、1996年から2011年9月まで、「はやぶさ」プロジェクトマネージャを務める。現在、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA) 宇宙飛行工学研究系教授、2011年8月より、シニアフェローを務める。ハレー彗星探査機「さきがけ」、工学実験衛星「ひてん」、火星探査機「のぞみ」などのミッションに携わり、小惑星探査機「はやぶさ」では、プロジェクトマネージャを務めていた

- 14:45～15:10 地球環境基金の20年と今後の役割について  
成蹊大学 名誉教授 廣野 良吉 氏

～ 休憩(15分) ～

- 15:25～17:15 パネルディスカッション 『持続可能な未来のために～NPOと企業、行政等との協働・連携について～』

【モデレーター】 一般社団法人環境パートナーシップ会議 (EPC) 副代表理事 星野 智子 氏



【パネリスト】



特定非営利活動法人エコ・リーグ 前事務局長 福島 宏希 氏

学生時代より「コンビニの環境活動を考える学生の会」など多くの環境活動に携わる。2004年早稲田大学卒業後、フロリダ州立大学公共経営・政策大学院に留学し、修士号を取得。帰国後、環境コンサルティング会社勤務を経て、09年～11年エコ・リーグの事務局長を務め、企業・行政等と多くの共同プロジェクトを行う。現在は、若者の団結を促進するプラットフォーム「United Youth」を主宰している。



トヨタ自動車株式会社 環境部 環境渉外室 プロフェッショナル・パートナー 西堤 徹 氏

1974年大阪大学経済学部卒業後、トヨタ自動車工業株式会社に入社。以降、2年間の出向（(財) 日本エネルギー経済研究所でエネルギー需給見通し担当）を経て、1997年まで調査部・総合企画部などで経済見通し等の業務を担当する。1998年からは、環境部で生物多様性、トヨタ環境活動助成プログラム（環境NPOのプロジェクト支援）、環境報告書、CSR等の業務を担当し、現在に至る。社外委員として、経団連自然保護協議会企画部会委員、環境省「環境報告書ガイドライン改訂検討会」委員（2003年度版、2012年度版）等を務める。



東京都市大学 環境学部 准教授 佐藤 真久 氏

筑波大学生物学類、同大学院環境科学研究科終了後、英国サルフォード大学大学院にてPh.D.を取得。地球環境戦略研究機関 (IGES)、UNESCOアジア文化センター (ACCU) を経て、現職。高校英国留学時代の北海汚染・東欧自由化、アジア太平洋地域における環境・教育・能力開発に関する国際的な職務経験、等を経て、グローバル化時代において「地球環境問題」と「貧困・社会的排除問題」の同時解決にむけた協働取組の重要性を発信している。JICA環境社会配慮助言委員会委員、JOCV技術専門員（環境教育）、日本環境教育学会理事、国連大学高等研究所客員教授ほか、所属大学ではISO14001環境管理責任者を務める。



特定非営利活動法人ACE 代表 岩附 由香 氏

上智大学在学中に米国に留学、帰国途中メキシコを訪れ、物乞いをする2人の兄弟と出会う。帰国後、大阪大学大学院国際公共政策研究科に進学、在籍中にACEを立ち上げ以後代表を務める。2006年までNGO職員、会社員、国際機関スタッフ、フリー通訳などをしながらボランティアで活動を続け、2007年からACEの活動に専念。日本のNGO141団体が加盟した2008年G8サミットNGOフォーラムのキャンペーンチームリーダーとして「100万人のたんざくアクション」を担う。現在「社会的責任に関する円卓会議」運営委員、国際協力NGOセンター理事など団体外での役割も担う。神奈川県在住、1児の母。



川崎市 環境局 地球環境推進室 室長 大澤 太郎 氏

- 17:15～17:20 閉会の辞： 独立行政法人環境再生保全機構 理事 今井 辰三

# 創設20周年記念 講演会・シンポジウム

日時：平成25年11月29日(金) 13:30～17:20 / 12:45 開場  
場所：東京国際フォーラム ホールD7

## パネリストとの交流会

講演会・シンポジウム終了後パネルディスカッションで登壇されたパネリストとの交流会を催します。

日時：平成25年11月29日(金) 17:50～19:30

場所：東京国際フォーラム ガラス棟7Fラウンジスペース

参加費：無料(定員100名、要事前申込)